

関西大学GPにおけるライティングルーブリックの開発と評価課題

毛利美穂・小林至道・西浦真喜子（関西大学教育推進部）

mohri@kansai-u.ac.jp

概要：大学間連携共同教育推進事業（考え、表現し、発信する力）を培うライティング／キャリア支援のためのライティングルーブリックの開発とそこから見てきた課題について紹介する。

平成24年度文部科学省採択 大学間連携共同教育推進事業（連携校：津田塾大学）

【本連携事業：〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援の5つの柱】

- ① **ライティングセンターを中心とした支援体制の再構築：**ライティングラボ（関西大学）の運営体制の充実化
- ② **eポートフォリオシステムの開発：**ライティング／キャリア支援のための多様な機能を備えたTEC-systemの開発
- ③ **評価指標の開発：**ライティング、自己評価、〈考え、表現し、発信する力〉のルーブリック開発と活用
- ④ **カリキュラムとの連携：**教員によるライティングラボの利用指示、授業における出張講座（例 ラボ利用ガイダンスなど）
- ⑤ **社会との連携：**高大連携、社会連携の推進（例 大学生向け講演会、高校生向け講座、作文コンテストの企画・開催）



評価デザイン：学士課程教育の質的転換と有為な人材育成のために欠かせない〈考え、表現し、発信する力〉の育成をめざし、ライティング力の向上を客観的に測る評価指標の作成・活用、および自己の学びをふりかえる自己評価指標の作成・活用を設定した。

開発および導入過程（2014年4月～現在）

サンプルレポート
（文系上位・文系下位・理系上位年次より提供された7種類、計30本）をもとに、アカデミック・ライティングに必要な観点を抽出。

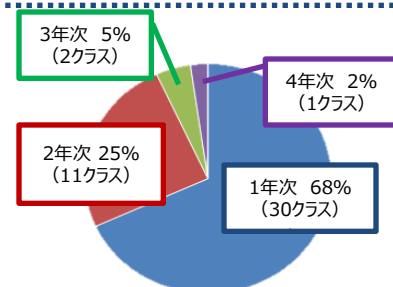
対象を絞り、サンプルレポート（文系下位年次1種類、計10本）をもとに、協議により観点、レベル、記述語を設定。

作成者4名および作成者以外の教員4名によるサンプルレポートの評価とその分析。

観点、レベル、記述語の改善。
レベルの定義と記述語に关してはガイドラインを設ける。

記述語は、各レベルの差異を明確化。
観点の一部は、チェックリスト形式を採用。

導入クラス 共通教養科目、学部専門科目を中心に 計44クラス



導入クラスの年次内訳

※ルーブリックの使い方は教員に一任

【ルーブリックの提示のタイミング】

- ① 授業内容がルーブリックの観点と重なる回
- ② レポート課題を学生に提示する回
- ③ レポート提出後に学生同士で推敲する回

【評価の方法】

- ① 学生の自己評価
- ② 学生同士のピア評価
- ③ 教員による評価

上記のいずれか、もしくは複数の方法で実施

ルーブリックに关する改善に向けての検討（学生へのアンケートと教員へのヒアリングの結果から）

【学生へのアンケート（自由記述）】

時期：第15回（7月）授業内

内容：ライティング力とルーブリックの使用について

対象：362名

回収率：62.2%（回収：225名）

※アンケートは、学期中に2回（プレ・ポスト）実施

今回は、2回目（ポスト）のデータを使用

自分のレポートの足りない部分はどこなのか、改善すべきとはどこなのかをわかつた

- ・ ルーブリックに書いてある基準が抽象的で、自分がどうであるのか、できているのかが分かりにくい点。
- ・ 判断がもう少し細かい段階があつてほしかつた。1～4では、2、3あたりが微妙だったため。
- ・ 1と4の違いはわかるが、2と3の微妙な違いはわからない。

レポートを書くことに関する、自分の今後の課題にいかすことができた

- ・ 自分の書いている文章が合っているのか不安になったり困った時に読むと、具体的にこうしないといけないと自分で気づくことが出来たので、最初より成長したと思います。

【教員へのヒアリング】

時期：アンケート回収後（7～8月）

内容：実際にルーブリックを使用して感じた問題点と要望

対象：5名

観点と尺度についての問題点

- ・ 観点「学術的な作法」と「日本語の表現」がチェックリストになっていることは、とてもわかりやすかつた。が、項目の重要度がフラットになっているので、実際には、重みづけが必要か。
- ・ 観点の「資料」がなにを示すのか、明確化が必要。

改善の結果（一部）

評価の観点	評価の観点の説明	1	2	3	4
資料の取り扱い	資料に関して、その内容を適切に把握し、十分な検討をまとめる。	資料に関しての記述がない。	資料に関する記述はあるが、その内容を把握できておらず、まとめられていない。	資料に関して、その内容が把握できており、まとめられている。	資料に関して、その内容が把握できており、論に沿ってまとめられている。
評価の観点	自分のレポートのテーマに関連する資料を選択し、十分な検討をまとめているか。	資料に関する記述がない。	資料に関する記述はあるが、自分のレポートのテーマに関連しない他者の記述を資料として取り扱っている。	自分のレポートのテーマに関連する他者の記述を資料として取り扱っている。	自分のレポートのテーマに沿った複数の他者の記述を取り上げ、自分の主張と関連付けて検討している。